



■ はじめに

副委員長 下川 滝美

長い暑い夏もそろそろ終わりでね。みなさんお元気でしたか。

今年は災害が多い年ですね。

3月25日、石川県で、能登半島地震 4月15日、三重県中部の震度地震そして7月としてはめずらしい沖縄を直撃した台風、7月16日の新潟中越沖地震。私達の住む地域は海に面していないので、比較的災害は軽くすんでいます。東海地震・東南海地震が迫っていますので備えは必要だと思います。

ところで、みなさん災害袋の準備はされていますか？

先日ある会で地震がおきたら何を持って逃げますか？という質問をしました。

中学生の男の子はゲームだと言いました。高校生の女の子は携帯電話だと言います。

そして障がいを持った男性のお母さんは息子だと言います、息子さんは車いすと答えてくれました。

私は、眼鏡と薬と・・・。

「他の人のものでは役に立たない物を持って逃げましょう」と5月の地震体験見学会の時、広域防災センターの方も言われましたね。災害に備えてみなさんも一度災害袋の中身を点検しませんか？

☆:☆。*:°☆。*:☆:☆。*:°:☆。*:°☆。*:

■ 今回の記事

- はじめに
- 今後の予定・お知らせ
- 見学会報告
- 東海北陸ブロック会女性建築士協議会 平成19年度定例会議(前期岐阜議)報告
- 全国女性建築士協議会 青森会議報告
- ほっと・コーヒーブレイク
- 編集後記

☆:☆。*:°☆。*:☆:☆。*:°:☆。*:°☆。*:

■ 今後の予定・お知らせ

- ◆ 建築文化講演会
日時:11月3日(土)
会場:岐阜県 未来会館
- ◆ 気楽にらくだ会
日時:1月19日(土)
会場:未定(ただいま検討中です)
- ◆ 東海北陸女性建築士連絡協議会
日時:2月23日(土)・24日(日)
場所:富山県

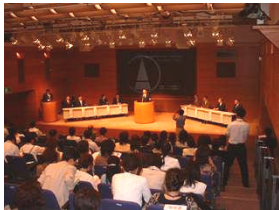
■ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
平成19年度定例会議(前期岐阜会議)報告

■ 19年度 東海北陸ブロック会 岐阜大会開催
津川 文江

6月23日(土) 県民文化ホール 未来会館にて開催されました。
参加された総数は(青年建築士91名 女性建築士41名)132名でした。

13:10～ 3階ハイビジョンホールにて合同で開会式が行われました。

13:30～ IAMAS(イアマス)学長 横山 正先生による講演「岐阜を知る 岐阜の建築家 堀口捨己を異視点から見る」堀口捨己氏(糸貫出身)の作品を中心に講演していただきました。



14:45～ 5階ハイビジョン会議室において 前期ブロック岐阜大会定例会日が行われました。 会議の内容は例年通り 今年度の事業計画の発表と運営委員長の報告でした。 岐阜県が開催担当でしたので 議長の飯沼さん 司会の宇佐美さん議事録作成の皆さん 出席していただいた皆様 ご苦労様でした。無事終了いたしました。有難うございました。



17:05～ 3階ハイビジョンホールにて 能登半島地震状況報告を 石川県の方から震災後の活動を報告していただきました。

18:10～20:00 6階レセプションホールにて、懇親会が青年の方の盛りだくさんの企画で行われました。この場所で 岐阜県の青年委員会の全国での発表が決まりました。今度の全国大会北海道大会で 発表されます。おめでとうございます。

■ H19年度 前期ブロック会議に参加して
西村 憲絵

去る6月23日に岐阜県民文化ホール 未来会館で開かれた前期ブロック会議に参加をしてきました。

大会宣言の後、IAMAS(イアマス=岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー)学長の横山氏から、岐阜建築家の堀口捨己の『茶と建築』について参考になるお話を聞き、その後、青年委員と女性委員に別れて会議を開きました。

女性委員は、初めに年間スケジュールの予定を各県の委員長さんが発表されました。今回、私は議事録作成の役目を仰せつかったのですが、この会議の内容が無事テープに入っているかどうか、四六時中気が気でありませんでした。そして、年間スケジュールの発表後、今後の建築士会に対する女性委員会の役割について、熱い意見が各県間で交わされました。こう言う時でない、普段思っている事が言えないので、この話し合いの機会が持てた事は大変良かったと思っています。

そして、青年委員と女性委員がまた合同で、福井県の青年委員長さんの『能登半島地震状況報告』の発表を聞きました。パワーポイントを使った報告を見て、被害状況が手に取るように良く分かりました。内容の完成度が高かったのは是非、全国大会でも発表して欲しいと思います。

最後に懇親会があり、各県の皆さんがそれぞれのテーブルに別れて食事をしました。今回の開催県は岐阜県でしたので、クイズや利き酒をして皆さんに楽しんで頂き、盛り上がりました。岐阜青年委員長さんのユーモアある接待に、他の一面が見えたようで楽しかったです。

このブロック会議は、年二回開かれて、それぞれ発表県・開催県と持ち回りで毎回違います。また、会議は一日か二日だけですが、会場の手配等準備までが大変で、多くの方々の労力で成り立っているのが分かりました。また、近県の方に自分の県を知って頂く良い機会です。今までは、何気なく岐阜県に住んでいて、今回岐阜県の紹介が以外に出来ない事に気づかされました。普段生活をしている中でも、何かを見つけ今後の役に立てればと思っています。また、議事録作成については大変でしたが、良い経験になりました。

■ ブロック会協議会に参加して(6月23日 岐阜にて開催)

飯沼あい子

今回は、岐阜が会場となったため、日頃の無礼もありお手伝いをさせて頂く事にしたところ、女性協議会会議の議長を仰せつかりました。

何しろ、ずっと以前に関わったきりでしたので、今では全くの“うらしまたろう”状態、

前回、前々回の議事録をいただいて早速復習。段々に記憶が戻り、進行手順を確認、そして本番を迎えました。

年齢を重ねて図太くなったせいか、ドキドキはありませんでしたが、気がついたら終わっていたという感じでした。手元のメモを見て、記録していたんだと改めて気がついた次第でした。そして感じた事。以前は各県にすごいパワーを持った女性がみえて、皆を引っ張り“ウーマンパワー全開！？”という空気が満ちていましたが、今はもっとソフトになったようでした。

しかし未だに存在する女性が年齢と共に関わる環境の変化にも柔軟に受け入れてもらえるような存在として女性建築士の集まりはこれからも続けて欲しいと感じた一日でした。



■ ブロック事業委員会報告

長瀬 八州余

1)平成19年度後期富山会議における福井県の発表内容について

会員の減少を食い止め、会員を増やすために、参加しやすい企画をということで、青年委員会の方からの要請もあり、青年と合同で行うことになりました。

『バリアフリー カフェ 100 軒マップ作成』ということで、福井県内にて喫茶店 100 店舗(チェーン店は除く)を目標に、カフェマップを 2 万部作成する予定です。

バリアフリーからの観点で建築士から見て、チェックシートを作りそのポイントが5点以上ならマップに載せるようにする。福祉条例等にのっとるとすごく厳しくなるので、チェックシートは独自のものを考えています。

県の福祉課にもお願いして、各支部ごとに活動してもらおう予定にしています。

階段、トイレ、駐車場からのアクセス、入り口等がチェックのポイントになるかとは思っています。

2)平成20年度後期静岡会議における三重県の発表内容について

以前から「減災」についての勉強会をしていたのですが、3月25日の能登半島沖地震に続いて、4月15日には三重県中部地震がおき、より身近に減災の必要性を感じました。

女性部会でできるようなケアの仕方、現地での女性の役割などいろいろと考えていきたいと思っています。

また、ワークショップ形式にするのか、発表形式にするのかも検討する予定です。

3)その他(平成22年度後期 岐阜県会議における岐阜県の発表)

平成22年度後期は岐阜県が担当県でブロック事業の発表も岐阜県ということで、どうにかできないかと、前回の会議で提案しましたが、一応岐阜県としましては、みんなで力を合わせて頑張ることにしましたのでよろしくお願いしますという報告をしました。

■ 全国女性建築士連絡協議会報告(青森)

■ 平成19年全国女性建築士連絡協議会に参加して 下川 滝美

●全体を通して

7月13日朝金山駅に集合をしてセントレアから青森へ出発をしました。雨が降りそうな天気で飛行機は雨雲の中を飛んでいました。

ふと目が覚めると綿雲の上を飛んでいてもっと上には青い空が広がっていました。やっぱり私は晴れ女だと確信しました。



青森へついて津川さんは委員長会議に、私達は、棟方志功記念館へ行きました。途中家の造りが豪雪地帯の工夫がされており興味深く散策をしました。



14:30 から開会式が始まり基調講演を聴きました。テーマは「地域と共生する住環境づくり」～自然とこだまする～で基調講演もマタギの方のお話でした。マタギとは私達の暮らしとは関わりのないものであったので自然と共生するとはこういうことなのかを思い講演を聴きました。

その後パネルディスカッション「北のまちとくらし」では、豪雪地帯の苦労話だけではなく雪との共生を楽しむような住まいの工夫なども聞かれました。



会場入口には全国から寄せられた「素材のゆくえ」が掲示してありました。岐阜は美濃和紙・美濃瓦・東濃ひのきなどを掲示しました。

夜の懇親会はアスパムで行われました。会場は3つに分けてあるなど土会の方の楽しい仕掛けがありました。津軽三味線の生演奏・踊りなど楽しめました。14日青森の天気は快晴でした。分科会にそれぞれ出席をしてエクスカッションに午後から参加する予定でしたが台風でセントレア行き飛行機の欠航が決まったために午後からの予定をキャンセルして羽田経由で帰って来ました。

青森県立美術館や三内丸山遺跡など心残りですが又の機会に……

■ 平成19年全国女性建築士連絡協議会に参加して 西村 憲絵

7月13・14日と青森で開かれた全国女性建築士会に参加してきました。

私自身、今まで青森に行った事が無かったので、青森の地がどんなものか期待一杯で出発しました。岐阜からは、4名参加しました。

一日目は、本会が開かれる前に、各県の委員長さんのみの会議がありましたので、他の3人は青森市内の建物探訪に出掛けました。市内を散策している時、ほとんどの家が風除室のある玄関になっていたり、室外機の設置する足が長かったり、信号機の配列が縦になっていたり、雪国独特の造りに納得をし、以前、東北出身のお客さんに新築住宅を建てるにあたって、玄関に風除室を設けなくて良いのかの疑問を投げかけられたのを思い出しておりました。

次に、「棟方志功記念館」を訪れ、棟方志功の名は知っていたものの、どんな作品を残した方なのか知らなかったため、作品を一心に制作している光景をDVDで観て、真の芸術家の生き様を見たようで、建築の仕事に携わっている者として心を打たれるものがありました。

本会の基調講演では、実際に「マタギ」としても活躍している工藤光治さんの「世界遺産白神山地とまたぎ」を聞き、その後のパネルディスカッションを見て、青森についてかい間見た気がしました。

そして、夜は「青森県観光物産展アスパム」で懇親会がありました。そこで食べたお寿司の美味しい事！三味線の独奏もあり、三味線の音色に合わせて他県の方々が、自分の県に昔から伝わる民謡や踊りがすんなりと出てくるのを見て、果たして岐阜の伝統舞踊は？と思った時に、郡上の盆踊り？直ぐに踊れるのか？と首を傾げてしまいました。

二日目は、分科会があり、私は「F分科会の子供と住環境」に参加しました。(別紙にて詳しい感想が書いてあります。)その後、エクスカッションに参加予定でしたが、台風の接近にて帰るのが危ぶまれたので、昼からのエクスカッションを全く参加することなく帰路につきました。実に残念でした。

全国女性建築士会は初参加でしたが、分科会等でもしっかりとディスカッションをし、他県と岐阜県の活動の違いが分かり、充実した二日間だったと思います。参加して思った事は、出席している女性達は実に元気が良い。一人一人がしっかりと行動をしなればと、生き生きと活動していました。本当に良い経験になりました。参加させていただき感謝申し上げます。皆様、ありがとうございました。



■ 基調講演とパネルディスカッションの報告

長瀬 八州余

基調講演は「自然とこだまする」というテーマで講師は工藤光治氏でした。この方は現役のマタギさんです。私のマタギとしてのイメージは、すごく野性的な人が登場するのかと思っていたら、スーツ姿で、すごくダンディーで素敵な方の登場でした。

マタギの仕事のメインは熊狩りで、すべての山での生活がそこにあり、普段の技術の結晶だそうです。

4月中旬から5月上旬の2週間ぐらいが熊狩りの期間で、その期間に狩猟した物が一番商品価値が高いということでした。昨年は夏から秋にかけて熊が里に多く出現してニュースになりましたが、その時期の熊はほとんど価値がなく、焼かれるか捨てられるかの処分をされています。本当にもったいないことです。過疎の村ができ、山里が放置されたのが熊が里に下りてきた原因だと思われます。自然をもとに戻すには、国産材を使うことによって、山が活かされ、山に生きる野生動物が生きてくるといってお話を、世界遺産の白神山地の写真をしながら説明されました。

最後に、自分の思いとして、湯川秀樹氏の言葉を引用して、自然は曲線を作る、人間は直線を作る。人類は産業革命を経て直線を進んできた。その先にあるものは破壊である。時は過ぎ去っていくものと思われていたが、時は円を描いて、輪廻再生を繰り返しながら流れている。21世紀は正座をして時を見直す世紀ではないのか。今、急にあれやこれやと言われても急に変えることはできないが、個々人が少しずつでも変えていけば、直っていくのではないのでしょうか。毎日の生活をほんの少しずつ変えていくことを心がけていって欲しいと思いますと述べられました。

パネルディスカッションは「北のまちと暮らし」というテーマでコーディネーターは月舘敏栄氏(八戸工業大学教授)、パネリストは田中裕氏(田中林業、青森県指導林家)、高松隆三氏(元市浦村長)、杉山陸子氏(NPO法人北国の暮らし研究会)、島康子氏(大間町まちおこしゲリラ あおぞら組組長)の4名でした。

まず、5名の方それぞれのお話があり、その後ディスカッションだったのですが、個々の方のお話時間が多くとられて、ディスカッションの時間が少なくなっていました。

月舘敏栄氏は雪害の概要を黒石町や青森市等を例に取りながら説明をされました。

田中裕氏は県産材を使って家を建てるということで「三八地域県産材で家を建てる会」を作り、健全な森は健全な川を作り水を作るの趣旨のもと、川上から川下へ運動を起こしていこうとしています。私たち建築士には、木材利用の為に、供給システムが遅れているので、地域の木材を使うデザインを考えて欲しいと訴えられました。

高松隆三氏は市浦村で運営されている健康増進施設「し〜うらんどタラソテラピー海遊館」のお話をされました。市浦村は老人だけの世帯が全世帯の25%になっており、老人問題は老人だけの問題ではなく家庭の問題になっています。介護保険のお世話にならず、平均寿命よりも健康寿命を伸ばすということで、自治体としては初めて海の恵みを活かしたシステム「タラソテラピー」を取り入れ、海の力をかりた建物を作ることになりました。新しい試みの建物なので、オープンまでには大変な苦労がありました。今では、人口3,000人の村で3年間の医療費が5,000万円も下がりました。全国から視察団が見学に来ていますし、各地でタラソテラピー(海洋療法施設)がオープンしています。地下資源の枯渇と人口増加に対して海が見直されてきているという話をされました。

杉山陸子氏は「雪の厳しさを知っていますか。雪の美しさを知っていますか。雪国の豊かなくらしを求めての市民活動」ということで、雪は悪い事ばかりではなく、美しくまた豊かなくらしを提供してくれてもいる。しかしそのためには、バックにある文化とかを見ていく必要があるし、いろいろは人がいろいろは立場で協力して知恵を出し合う必要がある。そうして市民の街づくりがはじまるという事を話されました。

島康子氏は、私はここが北だとは思っていない。海を通して世界に繋がっている。世界の中心だと思っている。「愛でる(めでる)、慈しむ、誇る」という気持ちで、ふるさとのくらしをおもしろがろうと思って活動をしているということで、活動の一部として鯉のぼりを凌駕する大間発「マグロのぼり」を紹介されました。本当に楽しいお話でした。

全体での時間が少なかったのですが、その中で、ストーブの話題が出て、火を見ることの豊かさ、薪ストーブの暖かさ、数値的な快適さではなく、感覚的な快適さが見直されてきている。北国のくらしには炎とか明かりの使い方を考えていかななくてはということでしたが、北国でなくても私たちのくらしにも取り入れていかななくてはと思います。

■ A 分科会テーマ「素材の伝承」

津川 文江

香川建築士会の発表内容

土塗壁などの伝統的な木造軸組構法による住宅は、木材の腐朽の抑制、可変性に富んだ空間の実現など、木造住宅の長寿命化を図る上で参考にすべき点が多く存在しています。

平成 15 年の告示改正では土塗壁の壁倍率が 0.5 倍から一定の材料と仕様規定を満たすことができれば 2~3 倍の倍率(1.0~1.5)が得られるようになったので 筋交いや構造用合板等に依存しなくても、土塗り壁で耐震設計が可能となりました。香川県下では、今でも地域に受け継がれた伝統構法として、土壁が好まれています。

この地域では 竹小舞土壁の材料にも恵まれ、技術的水準も評価されています。しかし、左官や小舞掻き職人の高齢化が進み、後継者も少なく、存続が危ぶまれています。この改正の意味は 極めて大きいと思います。

一方では 地域に伝わる構法との食い違い等が生じており、土塗り壁を住宅に使い続けていくには、食い違いを解消していく必要があります。そこで 普通に使われる社会的な環境を整えて、次世代に渡していくために 左官・大工・小舞職・壁土業・竹林業・設計者・研究者などで構成する「土壁ネットワーク」が必要となり、四国職業能力開発大学と「耐力壁としての土塗り壁の性能検証」等に共同研究し土壁を存続させるためにがんばっております。

福島県建築士会の発表内容

福島県では郡山の海老根 いわきの遠野 二本松の上川崎地区に伝統的な和紙が残っています。特に上川崎地区は千年以上の歴史を誇る和紙の産地で、平安時代には「みちのく紙」

と称され、紫式部や清少納言も愛用したといわれています。

昨年「女性建築士のつどい 地域で活かす身近な素材」においてこの和紙を取り上げ、歴史や工程の紹介、自邸内装に和紙を使っている地元建築家の講演や 和風のランプシェードを製作するワークショップなどの活動を行いました。

そして現在「上川崎和紙振興組合」の依頼を受け 二本松市や地元住民を巻き込んで 和紙を使った「新商品開発プロジェクト」をつくり 上川崎和紙の活性化と地域おこしをおこなっております



■ C 分科会「健康住宅」報告

長瀬 八州余

C 分科会のテーマは「健康住宅」で、コメンテーターは宮城県の星ひとみ氏でした。

今の現状を把握して、真のシックハウス問題について考えるという概要で始まりました。

建築基準法改定から 5 年以上経過した今、F☆☆☆☆を使えば良い状況になっています。果たしてシックハウスは解決したのでしょうか？

それぞれの場合によって、正解は異なってくる。これが絶対に正解と言うものはない。場合、場合で対処していくしかない。施工方法の違いで有害物質の数値は全く異なるものになるし、施工の各段階でできるだけ換気をしていくことは大事である。

個々の健康住宅やシックハウス対策の話もちろんあったのですが、今回一番考えさせられたのは、設計者としての立場でした。

施工者はクレームの無い方法や材料を薦めますが、それが本当に良いのかを設計者は考えなくてはなりません。施主だけでなく、施工者をも納得させる力が必要になります。それと共に、今の時代、施主も設計者と同じような情報を持っています。設計者としての力量が試される時代になってきています。だからこそ建築士会のこのような集まりで、皆で情報の共有をして、プラスアルファの情報を得て設計者としての力を付けていく必要があるのではないか、という事が話し合われました。

この分科会には 3 回目の参加だったのですが、続けて参加することができ、今までの分科会の流れがわかって良かったと思いました。

■ F 分科会テーマ(子供と住環境)に参加して

西村 憲絵

今回は、北海道建築士会の『子供を育む住まいづくり』と福井建築士会の『いきいき安心して働くために』が発表されました。

まず、『子供を育む住まいづくり』に関しては、北海道建築士会の報告書を要約しますと、北海道は住まいづくりについての冊子を発行するとともに、H18年度は3回のワークショップを開催しました。

その1つを紹介しますと、目的は、参加者に家族との関わりと、家族みんなが暮らしやすい住まいについて女性建築士と一緒に考えてもらう事で“気づき”を促し、住まいづくりへのきっかけとしたいという事でした。参加者は小学生以上の親子・家族が対象。

内容は、テレビアニメのサザエさんの家を題材とし、サザエさん一家の家族構成や年齢を〇×クイズで紹介後、敷地の中にサザエさんの家を部屋ごとにピースにしたものを組み合わせ、間取りを作成してもらい一家がどのような家で生活しているかを考えました。と同時に、その間取りについての良いところ悪いところも考える事で、参加者は楽しく家について考える機会が持てたようです。

次に『いきいき安心して働くために』に関しては、福井建築士会の報告書を要約しますと、共働き率の多い福井(女性の就業率が全国でNo.1)からの提案として、親の仕事の間、子供達はどのようにしているのか？仕事や家事に追われる忙しい女性が抱えている子供の環境は・・・？という事で放課後の住まいとも言える「児童館」に着目してみる事になりました。

各地域での児童館利用の子供達や父母、高齢者にも聞き取りを調査した結果、実際のところ、数が少ない・利用し切れていない・市と町の利用形態は行政によって大きく差がある(利用時間が早く終わる等々)・建物の外観ばかりにとらわれて、安全性を問われるディティールが多い等々問題は山積みようです。しかし、その中で評判の良かったものは、児童館と他の施設の複合化を希望している案がでて、建築士会では色々な世代が交流できる「夢の児童館」を提案してみました。親はイキイキ、子供はウキウキ、お年寄りも生き生きと、世代を超えてみんなで生活できる空間づくりができればという大きな視野でとらえる事ができたようです。

以上今回、全建女も分科会も初参加で、戸惑う事が多かったのですが、参加者は1つ1つのテーマに真剣に取り組む熱い意見交換をしていました。岐阜女性委員会では『子供と住環境』について詳しく話し合い等はされていませんが、多くの方々に女性委員会に参加していただく為にも、児童館のような働く女性が少しでも活動しやすい環境充実が必要であると感じました。

■ G分科会(高齢社会)に参加して

今回のコメンテーターは東京都建築士会で「私たちの東京旅行—移動空間 1993年～時を経て2006年」というテーマで発表をされました。

1993年に検証した東京の駅を今回2006年に再度訪れて交通バリアフリー法の施行によりどのようにバリアフリー化が進んだかを検証するものでした。駅の階段にスロープが設置されたがとても大周りをするもので実際には実用的でないものや時刻表や案内板の表示など大きなものに変更されたというものなど1993年との比較写真で発表をされておりとても興味深いものでした。

その後、各県の取り組みを発表しあいました。

この会に参加している方はほとんどが福祉住環境コーディネーターを持っており実際に高齢者や障害者の住宅改修にかかわりを持っている方ばかりでした。高齢部会を持つ建築士会もあれば NPO を立ち上げてリハビリセンターと連携を持って活躍されている地域もありました。また家族介護を経験してこの仕事に進んだ方も多く女性ならではの介護の経験を活かして仕事をしている方が多くいました。

分科会で何かヒントを得て地域へ・・・という思いで皆参加しており各県の取り組みを知ることは毎回大変ヒントになります。個人的にはよくわかって活動しているのですが、他県にあるようなバリアフリー部会、福祉部会・高齢部会というものが私達の県ではないのか？動いていないのか？必要ないのか？疑問に感じて帰ってきました。



■ 広域防災センター見学報告

5月8日(火)岐阜県の広域防災センターを見学しました。男性2人を含む9人で川島町の消防学校に併設されている施設に伺いました。

地震・火災・風水害などに対する防災についてのレクチャーを受け、防災グッズ展示の見学、地震・消火器・火災避難の体験、災害時の備蓄倉庫の見学などを順次行いました。

地震体験は濃尾大震災・神戸地震・中越地震などそれぞれの地震のゆれを体験させていただきました。床に座っての体験でしたが、それぞれに不気味な特徴的なゆれで、とてもその瞬間は動くことはできません。こんな揺れなら家屋も倒壊するかと納得してしまいそうです。ちなみに神戸の地震でなくなった方は、9割が家具の転倒によるのが原因だったそうです。

次は消火器の体験です。使わせていただいたものは水消火器でしたが、使い方自体は同様です。消火器は使うときなどありませんから、いざ本番となったときにあわてないようぜひ体験しておくことをお勧めします。

最後は火災発生時の避難体験です。無害の煙を発生させ、通路を順次離してゆくのですが、何人かは避難できずに遭難？していました。避難時は壁に手を沿わせてという注意を忘れずにいたいものです。

体験が終わる頃、消防学校の授業で訓練が行われており、学生たちのきびきびした動きとさわやかな挨拶を受け、自分自身の意識も新たになったような気がしました。

ここ防災センターでは地震体験は個人で無料で体験できます。10名以上なら事前申し込みをして以上の体験をすることができます。機会がありましたらぜひいってみてください。「備えあれば憂いなし」です。



寄席というのは落語家の噺だけではなく、マジックや曲芸、漫才などもその間に息抜きの的に入ります。面白いと「通」の人はすぐに反応します。噺家も敏感に客の層を見抜いて、そのやり取りも面白いものです。皆さんもたまには息抜きにいかがでしょうか？

名古屋にも大須演芸場とかがありますよね。今、HPで確認したら、演目が東京と全く違うので驚き。これも地域の文化が背景にあるのでしょうか。値段も1500円と安かったですよ！女性委員会で出かけましょうか(*^_^*)

● ほっとコーヒーブレイク

河内 美代子

最近、東京で寄席に行く機会があり、庶民にとって結構身近な演芸であることにあらためて驚きました。

私が知っているだけでも、鈴木演芸場(上野)、末広亭(新宿)、浅草演芸ホール(浅草)、池袋演芸場(池袋)と4箇所もあるのです。そのうち、出かけたのは今のところ、鈴木演芸場と末広亭の2箇所だけですが、夫は4つとも制覇(!)していて、私も年末までには何とか制覇したいなと密かに思っています。

ちなみに末広亭は椅子席が117、棧敷が76とこじんまりとしてお弁当を食べながら楽しめます。建物も如何にも演芸場といった雰囲気、新宿駅から近いです。鈴木演芸場は285席でちょっと大きいです。ここはアルコールもOKで、結構年配のご婦人なども缶チューハイとか持ち込んで楽しんでいます。値段は演目によって異なりますが、大体2500円から3000円までくらい。どちらも笑いの場だけあって、和気藹々と言った雰囲気があり、曜日演目によっては昼夜の入れ替えも無く、昼ごはんを食べながら楽しみ始め、夜9時頃まで笑い続けることも出来ます(さすがにお尻が痛くなりそう!)

■ 編集後記

平成19年度第2号をお届けします。内容がてんこ盛りですので満足していただけたと思います。皆様からの投稿はいつもお待ちしております。なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します